

# 圭陵会FAXニュース

## 第32号内容

- ・遠隔医療が本格始動
- ・沿岸被災地の健康後押し
- ・岩手医大 医師、患者に助言
- ・経力テール大動脈弁留置術
- ・岩手医大病院 東北で初実

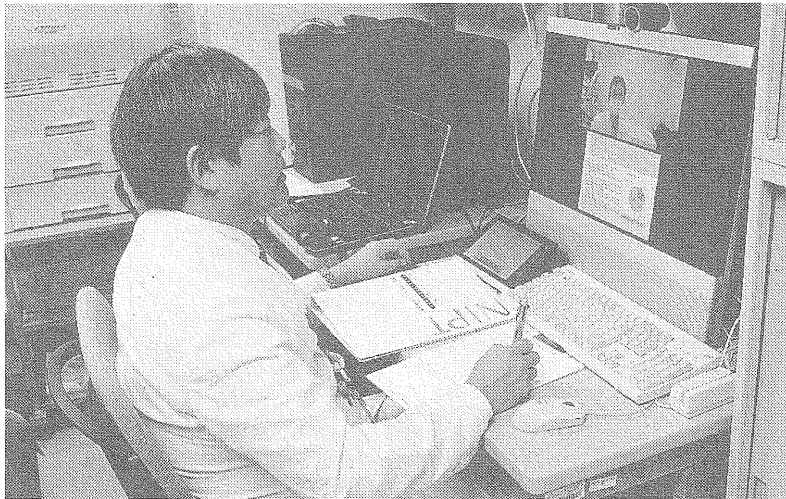
発行所：岩手医科大学圭陵会  
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早  
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380  
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

岩手日報 H26. 1. 31

## 沿岸被災地の健康後押し

# 遠隔医療が本格始動

盛岡市内丸の岩手医大(小川彰理事長)は30日、被災地の医療復興を支援する「いわて医療情報連携・遠隔医療システム」を本格稼働した。テレビ会議端末で同大と沿岸4県立病院を結び、同大の専門医が4病院の担当医に専門的な助言をしたり、患者らの相談に応える。広大な県土と医師不足・偏在という本県の医療課題に対応するシステムとして、成果が注目される。



遠隔医療システムで県立宮古病院とやりとりする岩手医大の福島明宗教授

## 岩手医大 医師、患者に助言

文部科学省の補助事業で、同大と県立久慈、宮古、釜石、大船渡病院の循環器科、小児科、歯科、脳外科、外科、産婦人科、内科、呼吸器内科などをテレビ会議端末でつなぐシステムを約5千万円で構築した。

30日には同大臨床遺伝学部の福島明宗教授が、県立宮古病院を利用する37歳の初産の妊婦に、高齢妊娠の心配についての遺伝カウンセリングを行った。

福島教授は女性に、高齢妊娠は決して特別なことではなく、心配であれば出生前に検査も受けられると説明。女性は安心した様子だったという。

電話での相談とは異なり、モニターで互いの表情を見ながら進められるのが特徴。福島教授は「非常に高性能で、タイムラグもほとんどなく、手応えを感じた。もちろん直接顔を

を合わせてのやりとりが一番だが、被災沿岸部から盛岡に来るだけでも妊婦には負担。多くの方に活用してほしい」と願う。

同システムは、沿岸医療機関の担当医が医大の専門医と情報共有し、精度の高い助言を得るためにも活用する。同大は2015年度まで、より良い遠隔医療システムの構築に向け、有効性や課題の検証を進める予定だ。

岩手日報H26.1.31

## 経カテーテル大動脈弁留置術

岩手医大病院  
東北で初実施

盛岡市の岩手医大病院  
属病院(酒井明夫院長)は30日、大動脈弁狭窄症の患者に対し、カテーテル(細い管)を使い弁を移植する「経カテーテル大動脈弁留置術」による手術を同日までに3例行ったと発表した。

同病院によると、北海道・東北では初の実施。国内では昨秋から一部医療機関で始まった治療法で、通常の切開手術ができない患者への新たな治療選択肢として期待される。

心臓内にある大動脈弁は、全身に血液を送り出す際に重要な役割を果たす。狭窄症を患うと、全身に十分な血液を送れなくなる。

手術は心臓が動いている状態で実施。カテーテルを血管に通し、狭くなった大動脈弁の場所に人工弁をはめる。カテーテルを脚の付け根の血管から入れる方法と、肋骨の間を少し切り心臓に入れる方法の2種類がある。

同病院は昨年12月に北海道・東北で初めて、同留置術関連学会協議会から実施施設として認定された。患者は70、80代の男性3人で、2種類の方法を実施。他臓器に疾患があり、通常の切開手術ができないケースだったという。

同大内科学講座循環器内科分野の森野禎浩教授は「長寿社会になればなるほど出てくる病気なので、今後有効な治療となる可能性がある」と話す。

## 圭陵会FAXニュース

圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。  
■圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>